

各位

2015年6月9日

アプリアックスIPホールディングス株式会社
(コード番号:3727 東証マザーズ)

アプリアックスIPホールディングス

ビーコン技術を使ったペットの見守りや健康管理用クラウドサービス(PICS™)を提供開始

～ 様々なメーカーのペット関連用品からの情報を見守りや健康管理等のペット関連サービスやアプリで活用可能に ～

アプリアックスIPホールディングス株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役:郡山龍、以下「アプリアックス」)は、ペットのトイレや給餌器などに組み込まれた「お知らせビーコン®」から送信されるデータを、ペットの見守りや健康管理等のペット関連サービスやアプリで活用できるようにする、ペット情報クラウドサービス(PICS™:Pet Information Cloud Service)の提供を開始することを発表します。

アプリアックスでは、「お知らせビーコン」をペット用品メーカーに提供しており、今後様々なペットの見守りや健康管理等のペット関連サービスやアプリで活用できるよう、ペット情報クラウドサービス(PICS)を開発しました。アプリアックスのペット情報クラウドサービス(PICS)により、ペットの飼い主は外出中もペットの活動をリアルタイムに知ることが可能になるだけでなく、ペットの見守りや健康管理等の様々なペット関連サービスやアプリでも履歴情報やリアルタイム情報を活用することが可能になります。

インターネットの普及により、スマホを使ったペットの見守りや健康管理等のペット関連サービスやアプリが急速に増加しています。また、IoTの普及により、ペットの給餌器やペットのライブカメラなどインターネットに接続可能なペット用品も増えてきています。しかし、これらの機器は専用のアプリやWebのサービスを使うようになっており、飼い主が気に入ったペットの見守りや健康管理等のペット関連サービスやアプリとの連携ができませんでした。このため、ペットの見守りや健康管理等のペット関連サービスやアプリの提供者が独自にインターネットにつながるペット用品を開発していましたが、飼い主の趣味嗜好に合わせた様々なバリエーションを揃えたり、流通やメンテナンスなどが課題となっていました。

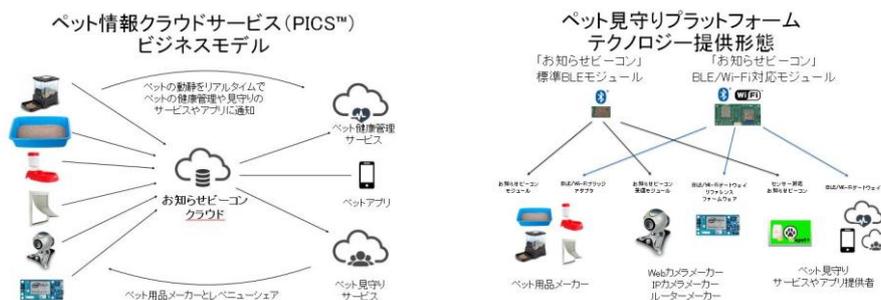
ペットの見守りや健康管理等のペット関連サービスやアプリの提供者は、ペット情報クラウドサービス(PICS)を活用することにより、自社専用のハードウェアを製造販売することなく「お知らせビーコン」搭載ペット用品により発生する売上からのレベニューシェアだけで、様々なペット用品からの情報を簡単に活用できるようになります。また、ペット用品メーカーは「お知らせビーコン」に対応したペット用品を提供していくことにより、ペットの見守りや健康管理等のペット関連サービスやアプリの提供者からのレベニューシェアで継続的な収益を確保できます。アプリアックスのIoT技術を活用することにより、既存製品やサービスをこれまでの機器販売モデルから継続的な収益を上げていくプラットフォーム化することが可能になり、ペット用品メーカーやペット関連サービス、アプリ提供者はビジネスモデルを変革させ、新たなビジネスチャンスを獲得することが可能になります。

■アプリアックスの取締役チーフエコノミスト長橋賢吾は「現在アプリアックスのビーコン技術は、機器とスマホ連動に積極的な海外のペットメーカーにおいて採用が進んでいます。そして、国内の健康維持・管理を含むペットビジネス市場規模は、矢野研究所によれば、2014年度は1兆4,412億円(前年度比100.9%)とみられています。日本においても、一匹当たりのペットにかかる支出が増加傾向であり、今後、ペット機器とスマホと連動した様々なペット関連サービスが登場するでしょう。そのなかで、アプリアックスのペット情報クラウドサービス(PICS)は、ペットの行動で発生するビーコンからの通知を起点として、様々なペットメーカーがサービスを提供できるスキームであり、ペット関連サービスの新たなビジネスチャンスを生むきっかけになるでしょう。」と述べています。

「お知らせビーコン」を搭載したペット用品は、明日6月10日より開催される大規模展示会「Interop Tokyo 2015」※1のアプリックスブース※2で初披露いたします。

アプリックスでは、IoT(Internet of Things)化技術により、すべての「モノ」を「生活を豊かにするサービスを届けるためのプラットフォーム(SDP:Service Deployment Platform)」にしていくことで、より多くの人々の生活を豊かにしていけるよう、サービスやアプリの提供者とメーカーが連携する新しい市場の拡大に努めてまいります。

以上



※1: Interop Tokyo2015開催概要について

Interop Tokyoは、インターネット黎明期と呼ばれた1994年から、常に最先端の情報通信関連の専門イベントとして開催。Interopの名前の由来通り“Interoperability”(相互接続性)をテーマに、最新の機器、技術、サービスが一堂に介し、実稼動する様子が見えるだけではなく、それらが実際の利用者とのように連携できるのかがわかるイベントとして専門家から一般のユーザーまで広く、長く愛されてきた歴史があり、日本のインターネットの発展と共に歩んでいます。さらに、今年もIoTを注力テーマとし、例年約15万人の来場者が訪れる大規模展示会です。

- ◆時期: 2015年6月10日(水)～6月12日(金) 10:00～18:00 (但し、初日は10:30開始。最終日は17:00終了)
- ◆場所: 幕張メッセ 国際展示場 展示ホール4～7
- ◆公式サイト: <http://www.interop.jp/2015/>

※2: Interop Tokyo2015でのアプリックス出展概要について

昨年11月に発表し、アプリックスが中核製品として推し進めている機器組込型のIoT技術「お知らせビーコン」を活用したさまざまなコンセプトモデルなどを展示します。また、展示会場内で開催されるセミナーにて、当社取締役チーフエコノミスト長橋賢吾が『IoTを実現する「ビーコン」の最前線』と題し講演します。

- ◆展示ブース: 幕張メッセ 展示ホール6 小間番号: 6W05

※アプリックスの展示概要については、こちらのティザーサイトをご覧ください。

■ アプリックスIPホールディングス株式会社について

アプリックスIPホールディングスグループは、ソフトウェアテクノロジーによって世界中の人々がより充実した生活を楽しめるようにすることを使命として事業を営んでおります。テクノロジー事業において、当社が開発・提供するBeaconには「Location Beacon」と「Notification Beacon」があります。「Location Beacon」として提供している「MyBeacon®シリーズ」は、常時電波を発信し続けるタイプで位置情報の一つとして、飲食業界、アパレル・ファッション業界、流通業界、不動産業界、レジャー・エンタメ業界、物流・運送業界、観光業界などの多種多様な業界をはじめ、公共事業や自治体などにおいて普及し始めています。「Notification Beacon」の一つである「お知らせビーコン」は、機器に組み込むことで、ある状態を検知した時だけ電波を発信するタイプで、浄水器、加湿器、扇風機、コーヒーメーカーなどの軽家電を始めとするあらゆる機器とBeaconを組み合わせることができます。また、出版映像等事業においては、シリーズ単行本累計300万部を超える「ブレイクブレイド」をはじめとする多くのヒット作品を生み出し続けております。同事業において児童書や絵本を提供するほろぷ出版では50周年を迎え、「ミルクこぼしちゃだめよ！」などの人気図書を出版しております。

アプリックスIPホールディングスのwebsite(投資家情報等): <http://www.aplix-ip.com/>

アプリックスのwebsite(テクノロジー事業等): <http://www.aplix.co.jp/>

■ 製品に関するお問い合わせ先:

株式会社アプリックス M2M 製品グループ

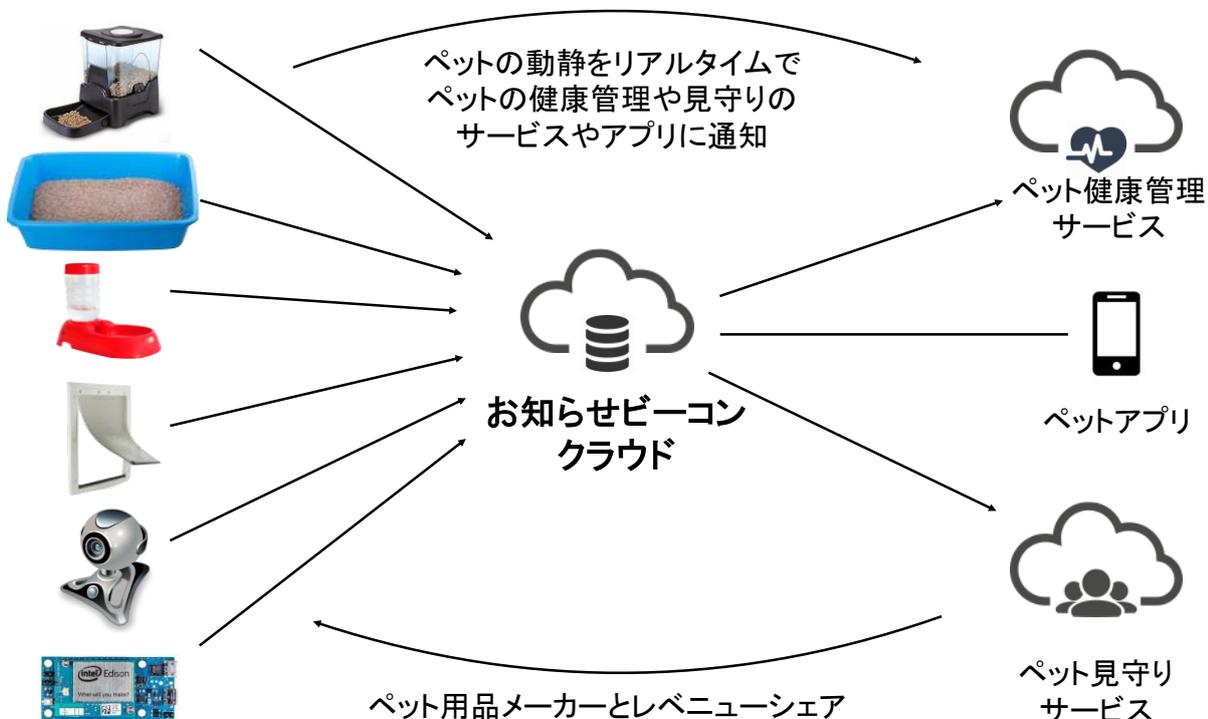
E-mail: m2m-group@aplix.co.jp TEL: 050-3786-1702

■ 本件に関するお問い合わせ先:

アプリックスIPホールディングス株式会社 広報担当 E-mail: ir-info@aplix.co.jp

※ 記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

ペット情報クラウドサービス (PICS™) ビジネスモデル



ペット見守りプラットフォーム テクノロジー提供形態

「お知らせビーコン」
標準BLEモジュール

「お知らせビーコン」
BLE/Wi-Fi対応モジュール

